

令和4年度 調布市立第七中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
校訓 「自尊・立志・感動」 ～徳・知・体の調和のとれた生徒の育成～ ○自尊 「徳」 自分を大切にし、思いやりの心を持つ生徒 ○立志 「知」 夢や希望を持ち、絶えず学び続ける生徒 ○感動 「体」 心と体を鍛え、爽やかな感動を生む生徒	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
【目指す学校像】 生徒一人一人に居場所があり、安心・安全で自分の力を伸ばせる学校 【目指す生徒像】 ○自尊 自分を大切にし、思いやりの心を持つ生徒 ○立志 夢や目標を持ち、絶えず学び続ける生徒 ○感動 心と体を鍛え、爽やかな感動を生む生徒	
【目指す職員像】 ○愛情と理性を持って、生徒に本気で関わる職員 ○健康で自己の強みを理解し、生かすことのできる職員 ○指導の目的を共有し組織力の向上に努める職員	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○現状：生徒・教職員・地域住民が七中に魅力と誇りを実感できるよう「地域協働の学校」作りを目指している。 ○課題：生徒一人一人の「自他を大切にできる心」と「生きる力」を育てていくことが課題である。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	主体的に学習に取り組む態度を育成し、読むこと・書くこと・話すこと・聞くことを通じた課題解決能力の育成につなげる。	週に1度漢字の小テストを行い、知識の定着を図る。書くことにおいては、意欲喚起のため、テーマによっては書きたい作品種別(随筆、詩歌、短歌、俳句等)を生徒自身に選ばせるなどして進めていく。また辞書も効果的に使い、語彙力を養う。
社会	基礎的・基本的な知識を定着させるとともに、社会的事象に対して自ら考え、判断し、表現する力の育成を図る。 学びの習慣化を図り、主体的に学びに取り組む姿勢を育成する。	・授業内でノートやプリントを活用し、まとめ・振り返りを実施し、基本的な知識の定着を図る。協同学習や討論型学習を導入し、社会的事象に対して自分の考えをもち、相手に考えを伝える力を身に付けさせる。 ・授業内で気づいたことをメモすることで、主体的に学び視野を広げる楽しさを感じさせる。
数学	数量や図形の基本的概念や、数学的に解釈するために表現・処理したりする技能、論理的に考察する力、数学的に表現する力を身に付け、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	・授業内で、演習の時間を活用し、数学的な知識・技能の定着を図る。 ・授業時に振り返りシートを活用し、日々の授業の振り返りを行う。
理科	自然に関わる事物・現象を探究する活動を通して、観察・実験に関わる知識及び技能を身に付け、身のまわりの生活に活用できる力を育成する。	授業の導入時に基礎基本的な内容を定着させるとともに、観察・実験を伴う展開において、予想や結果の根拠を考える際に思考ツールや ICT 機器を活用し課題解決に導く。また、その過程をきちんとふりかえさせ、教師は総合的に評価する。
音楽	基礎的な知識と技術を表現することにより、主体的に表現する力を育成する。また、音楽を形成する諸要素を感じながら音楽を鑑賞する力を育成する。	歌唱や器楽については、振り返りシートを利用しながら、自分の目標を細かく定め、グループ学習を取り入れながら、表現する力を高める。鑑賞に関しては音楽の諸要素を常に意識してどのように構成されているのか分析する力を身に付けさせる。
美術	作品制作を通して基礎的な知識と創造的スキルを高め、主体的に学習に取り組む態度を育むと同時に、自他の表現の良さを鑑賞できる力を育成する。	・創造的な技能の向上のための練習を取り入れ学習内容の定着を図り、毎時間自己評価シートで振り返りを行う。 ・作品を展示し自他の作品の良さを味わい作品について語らい伝える環境を整える。
保健体育	空間認知能力を高め、より良い人間関係構築を目指す。より良い人間関係を構築したうえで、自分の思いや考えを仲間に伝えられたり、仲間の思いや考えを最後までしっかりと聞くことができたりする力を育成する。	コーディネーショントレーニングを取り入れ、身のこなしを高める。自分の体をコントロールする力を高め、空間認知能力を高める運動に取り組み、仲間との距離感や自分があるべき場所についての能力を高める。また、思考ツールを利用し自分の考えをまとめたり、仲間の意見を視覚的に確認したりすることで、充実した話し合い活動を行う。

<p>技術・家庭</p>	<p>【技術】 基礎的・基本的な知識や技能を定着させるとともに、それらを活用し、表現する力の育成を図る。</p> <p>【家庭】 生活の基盤となる知識や技能を育成する。学習内容を実生活に活かしながら、生きる力の向上を目指す。</p>	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れずにももの作りができ、けががないような学習環境を整える。 ・思考ツールや作図等を活用し、生徒同士の言語活動を行う。 <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業をもとに自分自身の生活を振り返り、新たな目標設定を促す。 ・器具や道具の安全で適切な使用方法について、実習を通して学習を深める。
<p>外国語 (英語)</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度を育むことで、聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り・発表)、書くことのバランスのとれた自立した学習者の育成を目指す。</p>	<p>全体指導と個別指導のバランスを図り、個に応じた指導の徹底を図る。対話活動では、思考する時間を十分に確保し、考えを共有させる。題材について深い学びにつなげるための発問を工夫する。技能に関しては、個別判定を心掛ける。成績の基準を明確に示すことで、主体的に活動に取り組むように促す。</p>
<p>道徳科</p>	<p>主体的に判断し、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。また、自らを律する心や他者を思いやる心など豊かな人間性を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「話を聴く」ことのできる生徒を育成し、「聴き合える集団」のための自治と環境づくりを行っていく。 ・答えが1つではない道徳的な課題を提示し、生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」を行っていく。 ・3年間を見通した計画的、発展的な指導を行う。 ・学級における教師と生徒、生徒相互の信頼関係を築き、自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現できる雰囲気を作る。 ・教科横断的な指導等を充実させる。